

平成24年度 リサーチウィークス

期間：平成25年2月・3月



■ オープニングレクチャー (P.2)

開催日時：平成25年2月22日(金) 13:00～14:50
開催場所：120-3C 講義室 (120周年記念館3階)
講演者：藤井建夫 生活科学研究所所長・栄養学科特任教授
関根靖光 人間文化研究所所長・教育福祉学科教授

■ FDフォーラム (P.3)

開催日時：平成25年2月25日(月) 13:00～14:50
開催場所：120-3C 講義室 (120周年記念館3階)
内容：「東京家政大学としてのスタートアップ・セミナーを考える」

■ ポスターセッション (P.4-6)

開催日時：平成25年2月19日(火)～3月1日(金) 9:00～17:00
※但し、月曜は12:00から。金曜は14:00まで。土曜・日曜は開催いたしません。
開催場所：多目的ホール (120周年記念館1階)
参加部署：ポスターセッション参加一覧参照

■ 研究発表会・活動報告会 等 (P.7)

開催日時：研究発表会・活動報告会等日程参照

■ 教員研究成果発表会 (プログラム後日配付)

開催日時：平成25年3月1日(金) 13:00～17:30
開催場所：120-2B 講義室、120-2C 講義室 (120周年記念館2階)

平成24年度 リサーチウィークスの開催にあたって

学長 木元幸一

ここ数年は、事務部署からの文部科学省等助成金の競争的資金獲得が増えており、SD活動、FD活動等教職協同による大学教育のビルトアップの必要性が高まっております。お互いに良い協力関係を築くためには、まずお互いの活動を理解することから始まります。

ポスターセッションには、大学院生、職員、教員、各部署から多くのご参加を戴き、誠にありがとうございます。多くの方々に必ず一度は足をお運び戴き、本学における様々な活動をご理解し、ご意見等賜れば幸いです。



今回、リサーチウィークスの2月22日オープニングレクチャーとして生活科学研究所所長の藤井建夫教授と人間文化研究所所長の関根靖光教授にお願いし、研究所の現在の取り組みをご紹介いただき、皆さんと共に、研究に対する期待と本学園における研究所の在り方を考えるきっかけになれば幸いです。本学における研究所の存在は重要であり、僅かではありますが今年から新たに資金を導入しその独自の活動を奨励しております。研究所が、本学の教育研究資産を有効活用することにより、社会に広く還元し、発信する役割が期待されます。Hulipと同じく研究所は、社会と大学との接点ですが、研究所の活動は、時には社会を啓発し、大学と社会をリードして欲しいと願っております。生活科学研究所は、「温故知新プロジェクト」を立ち上げ、藤井建夫所長は、このプロジェクトを支援する外部資金を獲得しました。人間文化研究所の関根靖光所長は、岩手大学等との共同で災害と被災者に関する国際シンポジウムを開催し、引き続き被災地域との共同研究を進めております。研究所は、本学において最も社会に近いポジションに有り、内部の力を利用して外向きに社会に働きかける高い意識を持った活動が望まれます。そしてそれは手詰まりとなってしまうがちな大学院教育の先行きを照らし、本学全体の教育研究意識を高めていくことが期待されます。

また、2月25日のFDフォーラムは、新井哲男委員長、笹井邦彦副委員長、川合貞子家政学部長、井上俊哉人文学部長のもと新しい時代に向けての学生指導連絡検討委員会から、スタートアップエクササイズ、導入教育等幅広い話題を提供致します。

学園教職員の皆様の活発なご参加を何卒よろしくお願い申し上げます。

オープニングレクチャー 《日時》平成 25 年 2 月 22 日(金) 13:00~14:50
《場所》120-3C講義室 (120 周年記念館3階)

① 13:00~13:55 (質疑応答時間含む)

「温故知新プロジェクト - 生活科学研究所の活動 -」

藤井建夫 生活科学研究所所長
・ 栄養学科特任教授



東日本大震災とそれによる原発事故は、私たちの暮らしや考え方に大きな影響を与えた。震災の被害は甚大であり、それをより大きくした要因の一つとして、過去の経験や教訓に学ばなかったことがいわれているが、今回のことに限らず、昔の暮らしや生き方、技術などには学ぶべき点が多くある。

私たちもここで、前に進むばかりでなく、一度立ち止まって、専門家の目で振り返ってみれば、そこには私たちが忘れ去ったり、まだ気が付いていない先人たちの英知が見えてくるのではなかろうか。それらを掘り起こし、そこに含まれる知恵や工夫、技術などを震災後の私たちの生き方、暮らし(衣食住)に役立てることを考えてみたいという思いから、生活科学研究所では「温故知新プロジェクト」を立ち上げることにした。

ここではその考え方と各研究テーマの概要について紹介したい。

② 13:55~14:50 (質疑応答時間含む)

「生活の質的向上を目指す総合生活学の拠点」

関根靖光 人間文化研究所所長
・ 教育福祉学科教授



20世紀初頭、家政学はMITの最初の女性研究者 エレン・リチャーズによって、衣食住等の家庭生活と環境との相互作用を研究する Home Ecology として改革されました。しかしその名称はまだなじみ薄いとして、Home Economics の名称が選ばれ今日に至っています。その後、リチャーズの趣旨を汲み20世紀後半から、人間(生活)と3環境(自然・社会・文化)との相互作用を研究する Human Ecology も、家政学を代表する名称として並行して普及することになりました。ここに家政学は、自然・人文・社会科学を統合する人間生活の総合的学問として確たる理念を得たこととなります。

当研究所はこの理念のもと、最近の7年間、生命・生活・人生の質的向上を目指す理論的かつ実践的機関として自覚的に活動してきました。今後も、人間総合生活学の拠点として学内外をリードするとの意気込みで発展することを衷心より願っています。

平成 24 年度東京家政大学 FD フォーラム 東京家政大学としてのスタートアップ・セミナーを考える

フレッシュマン・セミナーが始まり、十余年が経過した。大学の大量化の進行とともに、導入教育を含む初年次教育の重要性はますます増してきている。本学でも大学で学ぶ姿勢を育む導入教育に始まり、今後 4 年間(または 2 年間)にわたる本学での学びの基礎を新生に授け、更には将来にわたる人生設計を個々の学生に考えさせるゼミを既に初年次に設置したり、その設置を検討している学科が多くある。そこで、今年の東京家政大学 FD フォーラムでは、問題提起をしてくださる先生方とともに、東京家政大学としての初年次教育について考えてみたい。

《日時》平成 25 年 2 月 25 日(月) 13:00~14:50

《場所》120-3C 講義室 (120 周年記念館 3 階)

司 会 : 新井哲男 新しい時代に向けての学生指導連絡検討委員会委員長

13:00~13:10 ご挨拶

木元幸一 学長

13:10~14:50 シンポジウム

「女子大学生のキャリアデザイン」

平野順子 保育科期限付准教授

近年、「キャリアデザイン」という言葉をよく耳にする。本学でも、短期大学部 1 年生において必修科目となっている。ここでは、女性のキャリアや生活の変容、教育課程におけるキャリアデザインの現状などのトピックスを取り上げ、女性のキャリアデザインの考え方についてお話をしたい。

「充実した大学生活に心理学が貢献できること」 三浦正江 心理カウンセリング学科准教授

大学生活で直面する数多くの課題は、学生にとってストレスであると同時に、大きな充実感や達成感を得られるものでもある。自分の感情や行動をうまくコントロールして課題を乗り越えることで、充実した学生生活を送ることができるだろう。また、良好な人間関係を持つことは課題を乗り越える際の大きな支えでもあり、それ自体が豊かな学生生活に結びつくものでもある。本発表では、これら二つの視点から、新生に学んで欲しい事項について取り上げる。

「建学の精神と導入教育」

走井洋一 児童教育学科准教授

基礎教育、あるいは導入教育には、当然のことながら、大学教育が前提されています。ただし、この場合の大学教育は一般的な意味ではなく、「東京家政大学」という個別で具体的な大学における教育にほかなりません。それゆえ、導入教育を考えるには、建学の精神を含めた本学の教育の在り方を再確認することからはじめる必要があります。この点を出発点とすることで見通される導入教育の在り方と具体的な展開を考えてみたいと思います。

「学生を“大人”として育てるために」

岩井絹江 進路支援センター事務部長

『採用先へのニーズ調査』では、卒業生に対し『積極的に粘り強く取り組んでいる』ことに高い評価を受けているが、『臨機応変な対応』への評価が低く、まじめだが社会性・柔軟性の低さが指摘されている。“大人”として育て社会に送り出すため、正課教育に加え、進路指導を含む正課外教育への共通理解と推進が求められる。さらに教職員 1 人ひとりが“生き方モデル”でありたい。これらについて少し意見を述べさせていただきたい。

「大学生にとっての生涯学習—その意義と課題—」

白木賢信 教育福祉学科准教授

本発表では、生涯学習の今日的な意義や捉え方について簡単に述べた上で、大学生(青年期相当世代)が生涯学習を行うことの意義やそこに潜むと考えられる課題について、特に生涯学習の特徴の 1 つである多義性の観点から取り上げることについて、さらにその課題への対策について、若干の検討結果を提示したいと思う。

リサーチウィークス ポスターセッション参加一覧

【 教員部門 】

所属	担当者	参加内容
1 生活科学研究所	高野綾子	生活科学研究所で行っている総合研究プロジェクト、産学官連携(白藤プロジェクト、石川県との連携等)、レクチャーフォーラム、研究・作品コンクール、研究生受け入れ、食リンピック等の成果発表
2 大学院 人間生活学総合研究科	西村純一	大学院では、院生の学会発表を奨励し、学会発表等の経費助成を実施している。大学院生は、研究指導教員の指導のもと、修士論文・博士論文の作成に向け、研究活動を行っており、その成果発表や学外研究活動を報告する。
3 大学院 人間生活学総合研究科	西村純一 海藤美鈴	東京都の小学校教員 386 名を対象に、新学習指導要領の実施前と実施後に、組織的な学校運営や教育課題解決に向けての取り組みに関するアンケート調査を実施し、小学校教員へのキャリアコンサルテーションのあり方について検討した。
4 大学院 人間生活学総合研究科	長尾慶子 荒井恵美子	調理科学会(秋田大)にて口頭発表した内容である。香りの心理的生理的効果から、煮干しとわさびにとろみ調整剤を加えることによるフレーバーリリースの比較を行った。とろみ調整剤は種類に関わらず、添加することで臭気指数が低くなる結果となった。
5 大学院 人間生活学総合研究科	長尾慶子 大倉洋代	調理科学会(秋田大)にて口頭発表した内容である。奄美特産のモチ(フティムチ)の調製条件の違いによる嗜好性、保存性及び抗酸化能の検討を行った。サネンの葉、黒糖及びビニシヨモギを用いて調製したフティムチはその他のモチ試料に比べ上記品質が優れていた。
6 大学院 人間生活学総合研究科	峯木眞知子 宮田美里	熊本県郷土酒「赤酒」の漬け汁を用いた食材との相性
7 児童学科	花輪充	平成 23 年度より開講された保育科 2 年生後期科目「保育総合表現」の授業目標、概要、計画、指導方法等を紹介するとともに、平成 24 年 12 月 24 日に行われた授業発表会「オリジナルミュージカル“I’ll try anything !! 今、みなぎる。”」について、学生の取り組みを報告する。
8 児童学科	佐藤隆弘	学生が協力してミュージカルを作り上げる授業過程が、学生自身の自己理解や自己評価などにどのような影響を与えるかを明らかにするための調査を実施した。今回は無作為に抽出した一部の学生のデータから、授業への姿勢に関する自己評価の結果を報告する。
9 栄養学科	宇和川小百合 色川木綿子	日本調理科学会 平成 24 年度大会で発表したポスターの掲示 第 59 回日本栄養改善学会学術総会で発表したポスターの掲示
10 栄養学科	関口紀子	<高学年児童における食生活・骨密度状況と食育活動の効果> 小学生の食生活の現状と食育の一環として、骨密度測定を実施し食生活との関連性を検討し、さらに骨の健康教育をととして、日々の食行動変容を促すことを目的とした。
11 栄養学科	長尾慶子	平成 24 年度海外研修補助費を受け、国際家政学会(IFHE)2012 のオーストラリア・メルボルン大会でポスター発表した内容である。日常よく食されている和風及び洋風献立の抗酸化能を種々の測定法を用いて測定評価した。いずれも和風料理の抗酸化能が高くなった。
12 栄養学科	峯木眞知子 成田亮子	1) 脱水シートで保存したトマトと椎茸のおいしさ 2) 熊本県産赤酒が魚料理に及ぼす調理効果 3) 米粉パウンドケーキに与える水溶性大豆多糖類添加の影響
13 栄養学科	森田幸雄	平成 24 年に公表した論文・報告・発表および学部学生の卒業論文など
14 栄養学科	和田涼子 葛城千紗	在宅高齢者への栄養教育の実践活動の取り組み
15 栄養科	青木幸子	日本家庭科教育学会第 55 回大会において口頭発表した内容のポスター展示 「教員養成課程における実践的指導力の育成 ー模擬授業を通して習得される資質能力の分析ー」
16 栄養科	塩入輝恵	小中学校教員が行う「食育」の支援における要点の検討 (第 59 回日本栄養改善学会にて示説発表)

所属		担当者	参加内容
17	栄養科	重村泰毅	大豆ペプチド摂取による血中コレステロール低下等の作用が報告されている。血液中へ吸収される有効成分の検出は、上記効果のメカニズム解明において必要不可欠である。本研究では大豆ペプチド摂取後のヒト血液から有効成分検出と同等を目的に研究を行った。
18	栄養科	土屋京子	米粉ケーキに及ぼすもち米粉添加のテクスチャーの影響
19	服飾美術学科	寺田恭子	服飾美術学科卒業研究ファッションショー 豊かで伸びやかな人間性の育成を目指し、本学創設以来の伝統である実践教育の一環として、卒業研究における作品をファッションショー形式で発表を積み重ねてきました。
20	服飾美術学科	山田民子	服飾美術学科のアパレル生産実習の授業による「アパレル製品の製作と販売」を目的としたイベントも第3回を迎えた。 昨年より北区と十条商店街と東京家政大学の産学官のコラボレーションによる開催が実現した。イベントの名称を「十条コレクション」としている。
21	環境教育学科	松木孝幸 平井千津子	多人数授業において活用されているクリックカーを利用した授業をどのように構成すべきかを事例を交えて報告します。
22	環境教育学科	吉原富子 他	果実類中の防かび剤残存量について 他 8 題目
23	造形表現学科	手嶋尚人 押元信幸	狭山アートキャンプ 2012 自然豊かな狭山キャンパスで、アートプロジェクトを実施。表現活動の広がりや学びだけでなく、他学科、他学年との交流の場をつくる。学生自らが企画運営を行うことで、人間力を養うことも目的とする。 今回活動のまとめとして小冊子をお届けする。
24	造形表現学科	大木敦子	コーデュロイ構造の展開による作品制作とフェルトによるテクスチャー研究
25	造形表現学科	岡本 恵	繊維造形によるサーフェイスデザイン -衣服という形体- の作品制作と研究
26	心理カウンセリング学科	近喰ふじ子	大学生の健康意識調査を行い、その中で特に起立性調節障害に焦点を当てて研究を行った。思春期に発症する事の多い起立性調節障害だが、大学生にはどの程度症状の見られる者があり、症状の重症度によってどのような特徴がみられるのかについて検討した。

【 事務部門 】

部署		参加内容
1	総務部 総務課	学園食堂の現状及び食環境の改善、見直し等活性化について取り組み
2	財務部 管財課	平成 24 年度に掲示した省エネルギーポスターの展示と環境への取り組みについて
3	生涯学習センター	2012 年度 公開講座、板橋区共催講座等、活動の成果報告と展示
4	ヒューマンライフ支援センター	ヒューマンライフ支援センターの活動は、学部・学科・科を越えて、学生の発想した企画を実行できるよう支援することです。また、官・学・産の連携事業に大学が培って来た知的財産を活用し参加支援することです。活動成果を展示及び配布物で参加します。
5	保健センター 学生相談室	保健センター学生相談室の利用状況をふまえた、学生相談室からの情報提供による連携活動の報告
6	保健センター 保健室	1. BMI16.5 以下の女子大生の食生活習慣が身体に与える影響について 2. 渡辺学園教職員の喫煙状況実態調査
7	教育・学生支援センター e-kasei推進室	平成 24 年度 e-kaseiによる取り組み ～『達成度アンケート』『導入教育シリーズ』『授業支援』について～

部 署		参 加 内 容
8	教育・学生支援センター 学生支援課	平成 24 年度 学生生活支援行事報告
9	進路支援センター	補助金を受けて実施している「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」及び学生への就職支援状況の紹介
10	進路支援センター	「教員対象講習会」20 回を迎えました。 「出身県別の集い」
11	博物館	博物館には毎年、「裁縫雛形」をはじめ多くの資料が寄贈されます。 今回は、博物館に寄せられた資料がどのように整理・保存されるかをご紹介します。
12	図書館	平成 24 年度 図書館活動の分析と報告 1. 学術情報リテラシー教育支援の支援状況 2. この1年間の機関リポジトリ活動について 3. 渡邊辰五郎・青木誠四朗コレクション : 5 年間の博物館・図書館連携(博物館・図書館協働報告)

【 附属 中学校・高等学校 、 ナースリールーム】

部 署		参 加 内 容
1	〔中・高〕国際化委員会	中高国際化委員会より、カナダホームステイプログラムの報告です。 2010 年度よりホームステイに変更し、今まで 3 回実施。プログラムは人気があり、年々参加希望者が増えた為、今年度は募集人数枠を 30 名→40 名に広げ、参加者は過去最大の 47 名でした。
2	〔高〕ドリルチーム部	高等学校ドリルチーム部の活動報告と、大会実績です。 平成 25 年 3 月にアメリカ・フロリダで開催される世界大会へ出場が決まり、日々の活動を一部報告させていただきます。
3	〔高〕ソフトテニス部	高校ソフトテニス部の活動内容の発表です。 目 標…社会で通用する人格形成、インターハイ出場 モットー…「笑舞」「意識」「プラス思考」 戦 績…インターハイ出場(個人 2 回)、関東大会出場(個人 19 回、団体 5 回)、全日本選抜私立選手権(個人 11 回、団体 1 回)
4	〔中〕ビオトープ委員会	附属中学校ではビオトープを管理・維持するため、ビオトープ委員会が発足しました。 活動は手探りの状態ですが、身近な自然を大切に、情報を発信していくための委員の取り組みをご紹介します。 発表を通じて学園の皆様のご助言ご協力が得られればと思います。
5	〔中〕理科部	附属中学校理科部が 2010 年 4 月より行っている研究「石神井川と学校ビオトープの池の水の水質調査」が本年度、科学技術振興機構(JST)の科学部活動振興事業に採択されました。2010 年 12 月に生徒たちが行った中間発表のポスターを掲示します。
6	〔中〕中学校 3 学年	社会の中で自己を確立し、活躍し始める年齢=25 歳を目標に自分の理想の未来像を描く本校の「ヴァンサンカン・プラン」 中学 3 年生では、自分の将来の夢や理想を、写真やイラストで表現した『宝地図』を製作しました。私たちの夢が詰まった作品をご覧ください。
7	〔中〕給食施設	「附属中学校スクールランチと食育について」 ごはんを中心に野菜や魚など多様な食品を組み合わせた日本型食事を基本においたスクールランチメニューと、それらを生きた教材として展開している食育内容を紹介展示する。 また、スクールランチの広報活動についても紹介する。
8	ナースリールーム	人生の最初のスタートを歩み始めたばかりの乳幼児にとって、今なにが大切なのかという視点で保育に取り組み、その一環として、みんなで同じ食卓を囲みおいしい食事を楽しく心地よく食べられるよう食育を実践している。今回はその実践について報告を行う。

※ ポスター展示のほか、映像での発表も行っています。

放映時間・内容については、ポスターセッション会場の案内掲示をご覧ください。



リサーチウィークス 研究発表会・活動報告会等日程

月日	曜日	リサーチウィークス関連 研究発表会等
2月 1日	金	服飾美術学科 十条コレクション 2/1～2/2 〈十条銀座商店街〉
2月 2日	土	
2月 3日	日	服飾美術学科 卒業研究ファッションショー 〈多目的ホール〉 ①13:00～ ②16:00～
2月 4日	月	
2月 5日	火	環境教育学科 卒業論文発表会 〈三木ホール〉 10:00～18:00
2月 6日	水	
2月 7日	木	
2月 8日	金	栄養学科 卒業論文発表会 <152A> 10:00～
2月 9日	土	造形表現学科 卒業制作展 2/9～2/15 〈北とびあ〉 10:00～21:00 (最終日 14:00)
2月10日	日	
2月11日	月	
2月12日	火	
2月13日	水	
2月14日	木	大学院修士論文発表会(文学) 英語英文学 <162B> 13:00～14:00 心理教育学 <162C> 9:00～10:50
2月15日	金	
2月16日	土	
2月17日	日	
2月18日	月	大学院博士論文発表会(家政学) 人間生活学 <162B> 12:00～13:20
2月19日	火	大学院修士論文発表会(家政学) 食物栄養学 <162B> 10:00～11:35 被服造形学 <162C> 10:00～11:20 児童学 <162D> 10:00～11:20 ポスターセッション 2/19～3/1 (土日を除く) 〈多目的ホール〉
2月20日	水	
2月21日	木	
2月22日	金	オープニングレクチャー 〈120-3C〉 13:00～14:50
2月23日	土	
2月24日	日	
2月25日	月	FD フォーラム 〈120-3C〉 13:00～14:50
2月26日	火	
2月27日	水	
2月28日	木	

月日	曜日	リサーチウィークス関連 研究発表会等
3月 1日	金	教員研究成果発表会 <120-2B,2C> 13:00～ ポスターセッション <多目的ホール> ～3/1
3月 2日	土	心理カウンセリング学科 相馬ゼミ 卒論・修論発表会 <171A> 13:30～
3月 3日	日	
3月 4日	月	
3月 5日	火	
3月 6日	水	栄養科内研究発表会 <120-3B> 13:00～
3月 7日	木	
3月 8日	金	
3月 9日	土	
3月10日	日	
3月11日	月	
3月12日	火	
3月13日	水	
3月14日	木	
3月15日	金	
3月16日	土	
3月17日	日	
3月18日	月	
3月19日	火	
3月20日	水	
3月21日	木	
3月22日	金	
3月23日	土	
3月24日	日	
3月25日	月	造形表現学科 助教研究発表会 3/25～3/30 〈7号館1階ロビー(予定)〉
3月26日	火	
3月27日	水	
3月28日	木	
3月29日	金	
3月30日	土	
3月31日	日	